

ハーモニーの楽しさ

合唱団顧問

昨年の定期演奏会のとき、この同じ県民会館大ホールで聴かせてもらった素晴らしい演奏に心から感動し、やはり合唱は全員が互いにさきあつてハーモニーをつくり上げようとする気持ちこそがその神髄なのだということを痛感させられました。同時に、出来ることならば、自分もただ聴いているだけでなく、仲間に加えてもらって一緒に歌いたいと思い、佐々木先生にお願いして、二週間後の東京公演ではまことに厚かましく学生諸君にまじってステージに立つことが出来ました。

あれから早や一年、今年は定期演奏会にも是非と思いつつも、なかなか練習に出られず、はたしてどうなるか見当がつきません。この原稿を書いている10月末の時点では、演奏会まで残すところ一ヶ月余り、その間に特訓を重ねて一緒に歌えるようになれるかどうか。いずれにしても、今年もまた、御来場の皆様と御一緒に、ハーモニーの素晴しさを味わうことが出来ればと心から期待しております。

私達の合唱

「合唱？ 冗談でしょ。楽譜も読めない人間がどうして合唱なんてできる？」と、言っていた人が、なぜかここに89名。いつの間にかハーモニーの中で歌っている自分に、天と地とをひっくり返されたような衝撃を受けた人も数多いのです。

この大家族が河口湖の常在寺に大移動しての夏合宿（七泊八日）。包丁を振りかざして何十個もの玉ねぎを泣き泣き切り続けるエプロン姿、一生に一度、目にするかどうかほどの大きなおなべを前に汗だくの親子どんぶり作り……その中から生れ出るものは、まさに身も心も一つになったハーモニー。その感動は玉ねぎの涙どころではありません。

佐々木先生との出逢い、そして分離唱——。ハーモニーは決して一つの音では響きません。ちょうど人間が独りでは生存できないように。人と人との心の和から生れるこのハーモニーから、私たちは思いやりの心、はかりしれないやさしさを教えられました。そして今、私たちはこのハーモニーすることのよろこびをより多くの人たちとわかち合いたいと心より願っています。